

2017 年度春学期修士論文テーマ一覧

2017 年度春学期において、修士論文を提出し、修了が認定された修了生について、氏名と研究テーマを以下に示します。

氏 名：森田早映子

題 目：発酵食品を通じた京都市上賀茂における伝統農業文化・技術継承に関する実践的研究

一伝統漬物「すぐき漬」を素材として一

梗 概：近年日本では和食離れが進んでいる。2013 年 12 月、和食がユネスコ無形文化遺産に登録された。和食が注目されるようになったが、食卓に並ぶ和食の割合が増えることには繋がっていない。消費が増えない中、和の伝統食の製造現場では、継承が問題となっている。その一つが京都市上賀茂名産のすぐき漬けである。筆者は京都市上賀茂ですぐき農家の 4 代目の長女として生まれた、すぐき農家の継承者である。日本の農業全般にわたり後継者不足が深刻化している現在、上賀茂のすぐき農家も後継者不足は同様であり、伝統食であるすぐき漬けも衰退の危機に瀕している。そのことにすぐき農家の 4 代目で当事者である筆者は責任を感じ、女性が農業を継承していく方法を模索した。

減の施策としての「洗車教室」の在り方を明らかにするとともに、今後到来する日本の超高齢化社会における「洗車教室」の展望と課題についても明らかにした。また、「洗車教室」がどのようにソーシャル・イノベーションにつながるのかをまとめた。

氏 名：友成 和史

題 目：クルマ美化による高齢ドライバー事故低減に関する実証的研究

梗 概：高齢ドライバー事故防止の対策として、70 歳以上の高齢ドライバーに義務付けられている「高齢者講習」現行の交通安全教育は、高齢ドライバーが自身の運転行動の問題発見をすることはなく、交通事故防止に対する認識が改められる可能性は低い。本研究では、高齢ドライバーが自身の運転行動における問題を発見できるような「洗車教室」という新たな交通事故低減に向けたプログラムを提案する。高齢ドライバーの意識変化から、高齢ドライバー事故低